寫眞週報

情報局編輯 七月五日・第三二八號

時の立札

いま同じ地の果てに
女隊さんは奮闘する



勝て勝て勝つんだ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

情報局編輯 七月五日・第三二八號

寫眞週報

時の立札

いま同じ地の果に
死闘する
兵隊さんは
勝て勝て勝つんだ



アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

激化する航空戰



六月十六日午前二時、支那方面よりB29 B24二十機内外は

北九州に来襲し、また南部朝鮮にも飛来して来たが、制空部隊は果敢にこれを邀撃、撃墜七機、撃破三機といふ見事な戦果を挙げた。しかも撃墜機中には敵將が絶対墜ちぬと誇つたB29も入つてをり、その残骸を北九州に曝したのである。敵機の来襲した地方の人達も流石は神州大民族なりとの感を一般に與へ、まことに意を強くしたのである。しかし遂に敵は支那本土を基地として我が本土を空襲し来つた

また六月十九日朝には敵部隊がサイパンに上陸を企圖し来り、我が軍は前後二回これを水際に撃退したが、同日正午頃、三度来襲し来つて目下我が軍はこれと激戦中である

この経緯を観察するに、敵が我が本土に對し南太平洋の航空基地を進めて来ようとする意圖がいよ〳〵明瞭に看取せられるのである

今次大東亜戦争において、航空作戦が有つ意義の重大なこ

とは、現に各方面の戦況に現はれてゐる如く今更多言を要しない

従つてこれまでは、重慶側の確保などの作戦意義が重視されてゐたが、現在は、勿論その作戦目的によつても異つて来るのではあるが、これら要地の確保争奪が航空であると共に、航空基地の確保争奪、並びに航空基地の撃滅が重要な意味をもつて来てゐる

支那方面のわが陸軍航空部隊は五月十二日戦爆連合の大編

隊で、三次に亘つて在支米空軍の重要航空基地遂川飛行場を攻撃して所在の敵空軍に徹底的打撃を加へ、戦闘機七機、撃破炎上大型機十二機以上、小型機十六機以上合計四十五機以上の赫々たる戦果を収めた。次いで五月二十九日、三十日の両日には、衡陽、遂川の敵飛行場を急襲し、大型機十一機以上、小型四十二機以上を撃破炎上する戦果を挙げた。

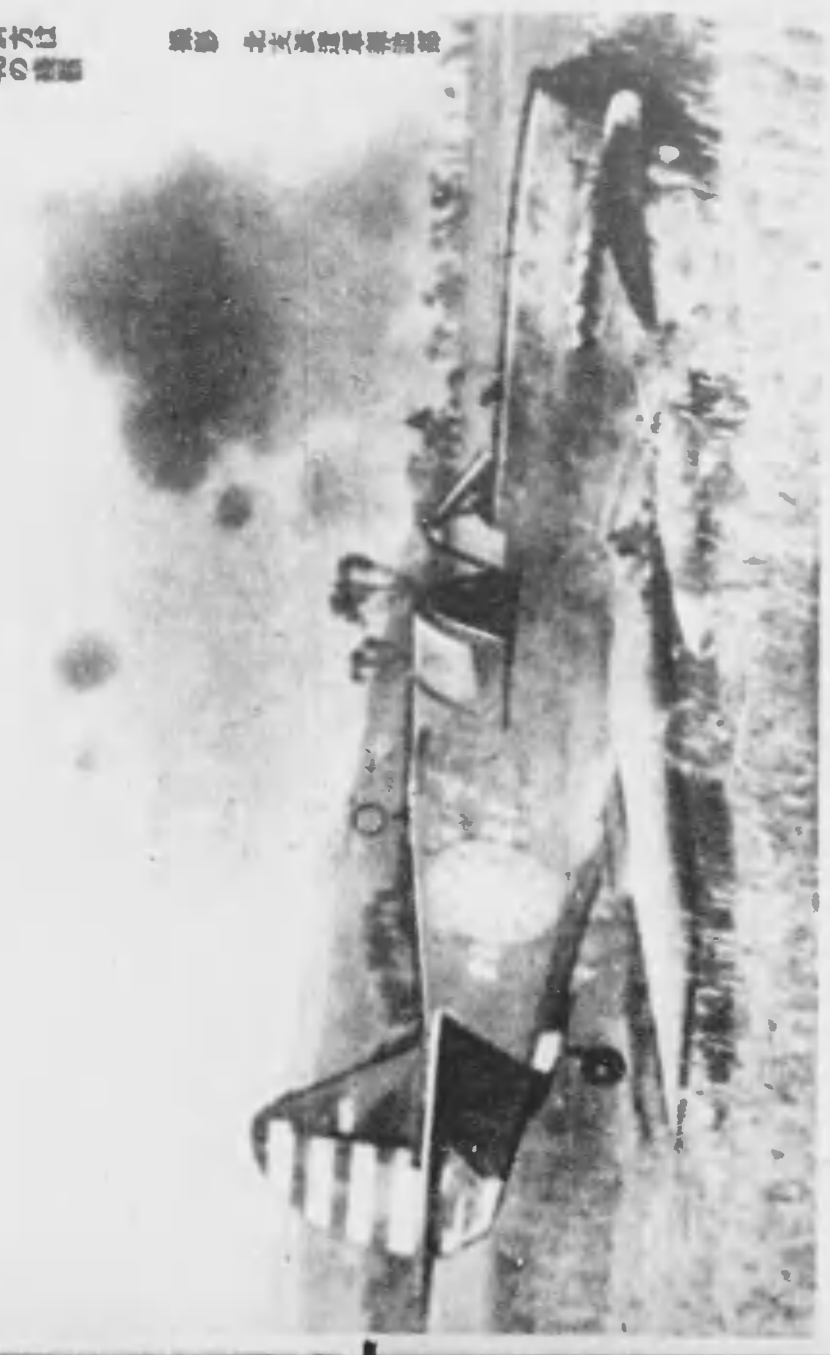
また帝国陸軍航空部隊は四月中旬に敵に約七百機の損害を與へ、五月中には更にこの戦果を増大して、約九百機の損害を與へてゐる

また、支那方面のわが航空部隊は、湘江地上作戦に協力すると共に、在支米空軍撃滅に活躍し、**六月一日より十二日まで**には**爆撃機撃墜二十一機**（内不確實五機）**炎上五十四機撃破六十八機、合計百四十三機**の新戦果を加へてゐる

これらは既に発表されたところであるが、この航空作戦の大戦果は河南及び湘桂作戦における地上作戦の戦果と共に、特筆大書されねばならぬものである

敵将ニミッツは「我々の太平洋作戦終局の目的は支那大陸に上陸することである」といひ、また東北方にも基地をはめたい（からニュチ（上海附近）は「我々は北方に基地を有つことにより百万人の人命の犠牲を減じ得るであらう」といつてゐるが、これ等はその航空基地を先づ我が本土近くに求めようとする敵の意図の一端を示してゐるとみられる

この観點からビルマにおける敵の反攻企図を検討すると、敵が躍起となつて呼號してゐるビルマ奪回の主眼は、先づこれによつて、レド公路を打通することにある



小癪にも反撃して来る敵機、敵方はわが軍に撃墜された敵戦闘機P40の残骸

撮影 北支派遣軍報道部

レド公路といふのは、東部印度における重要鉄道アッサム

ベンガル鉄道の東北端終点に近いチンスキヤ附近から延長された支線の終點レドを起點として、北緬フーコン地區を貫き、マインカンからモガウン、ミートキーナに出で、騰越、保山を経て雲南に至らんとするものであるが、陸路附近がわが軍の強力な制圧下にある関係上、ミートキーナから東北方約五十キロのセンクからピモーを経て保山に至らんとする道をとらへてゐるやうである

昨年のビルマ占領以来、例のビルマ公路はわが方の制圧するところとなり、小規模に特る有效な輸血路は空路を除くほか皆無となつた。この對支輸血空路はチンスキヤから昆明を経て重慶に至るものである

勿論この空路だけでは支那の軍事力強化を全うし得ないばかりでなく、在支米空軍の所要物資をも充足し得ないので、蒋は声を大にしてレド公路打開の急を叫び、米国は何とかして地上よりする補給路の打開を焦つたわけである。殊に最近に至つては重慶空軍といふものは悉く米国司令官スチルウェルの指揮下にあり、飛行場の設定さへ米国が自らやるといふ焦り方である。その機数も六百機以上になつてゐるといはれてゐる状況から見ても、米國としては一日も早くレド公路を開き、在支米空軍を強化増強しようとしたことは首肯のできることである

即ちレド公路の打通によつて支那大陸にまづ航空基地を

推進し、航空機による海上補給路の缺陥を狙ひ、或ひは日本本土空襲を企圖し、進んでは全面的に支那大陸を對日反攻の足場としようと考へてゐるとみられる

だが、敵のビルマ奪回企圖は昨年の乾季まづ失敗に歸し、今年の乾季も彼等の欲するが如き成果をみることなく終つてゐる

しかも、レド公路を打通して、大陸戦線への輸血路にせんとする狙ひは、米蒋兩國と英聯とは必ずしもその熱意が同様とはみられないものがある。即ち前述の理由からしてレド公路打通は米國と蒋介石にとつては極めて重大なる意義があるが、英國は例の自己保全一流のやり方から、何といつてもインド防衛が主眼なのである。即ち英國にとつては印緬の作戦はレド公路の開設よりもインドを如何にして守らうかといふのが第一になつてゐる

今ここで印緬作戦における敵軍をみると、北では怒江を挾んで米式装備の重慶軍に對し衛立煌が雲南遠征軍を指揮して我が陣地を窺つてゐる。そしてこの雲南遠征軍はスチルウェル麾下の米軍と緊密に協力してゐる。北部では新編第一軍のヶ師がフーコン地區の作戦に出てゐるのであるが、これはその編成装備共に米式で、教育訓練もまた米軍から受けてゐて、從來の重慶軍に見受けられない強味を有つてゐる。この軍は米將スチルウェルの指揮下にある。スチルウェルはこのほかに米英混成の約二ヶ旅團を指揮してゐる。インパール附近からチンドウインに至る正面にある英軍は英印軍であるが、これはマウントバッテンの直接指揮下にある。そしてマウントバッテンはスチルウェルの軍の指揮もしてゐる

マウントバッテンの下にはインド軍司令官オーキンレックといふ男はインドの直接防衛に當つてゐる。即ち

- マウントバッテン ─ 東部印度軍
  - スチルウェル ─ 在支米空軍、印緬米軍、新編第一軍
  - オーキンレック ─ 印度防衛軍

しかるにさきに述べたレド公路打開の爲めに關する米蒋兩國と英國との對立は、例へば敵はレド公路打開に、是非とも必要とされてゐるミートキーナに對し非常な無理をして空挺部隊を送り、または北から重慶軍を投入させたのであるが、これに對する作戦協力について英國は種々な口實を設け、必ずしも熱心ではない

これを要するに近代戦において航空作戦のもつ意義は特に

大きい。これが國内においても絶えず叫ばれ増産が叫ばれてゐる所以であり、さらにこれと共に航空機を飛ばせる基地、即ち航空基地が極めて重要な意味を有つて登場して来てゐるのである。今や敵は何とかしてこの基地をわが本土に對し近づけようとし、しかもその努力はある程度成功してゐる。即ち支那大陸を基地として既に今回の空襲があり、また北方アッツ、キスカ附近は既に敵機が來るやうになつて、四方面から、わが本土空襲は可能となつた

今やもう本土は戦場となつた。しかもこれからの敵の空襲は必ずしも北九州に對するが如き小規模のものではなからう。あれはほんとに敵の小手調べとみてよからう。我々一億國民はますます不退轉の決意を固めて、以て敵の本格的空襲に備ふべきである

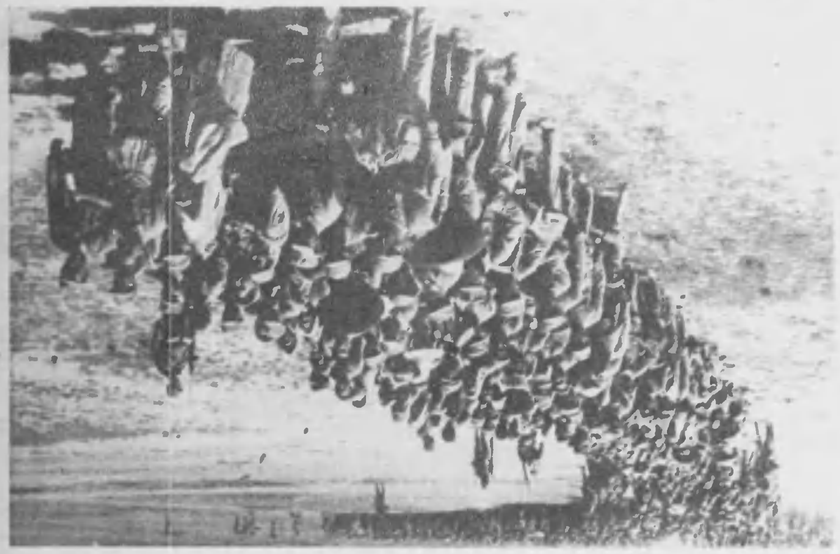
大本營陸軍報道部



アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/











国境紛争

ソ連とモンゴル人民共和国（外モンゴル）との国境紛争は、ソ連軍の大規模な攻撃をうけるや、一挙に全面戦争へと発展した。ソ連軍は、ノモンハン地区に集結した日本軍を包囲殲滅するため、ハルハ河を越えて東岸に橋頭堡を築き、さらに東岸を南下して日本軍の背後を衝こうとしたが、日本軍の頑強な抵抗にあい、ほとんど進展をみないまま、九月十五日、モスクワで停戦協定が調印された。

ハルハ河は、ハイラルの西方、ホロンバイル草原を流れる小河で、ソ連軍は、ハルハ河東岸のノモンハン地区に、約六万の兵力を集中し、日本軍の背後を衝こうとしたが、日本軍の頑強な抵抗にあい、ほとんど進展をみないまま、九月十五日、モスクワで停戦協定が調印された。

ハルハ河は、ハイラルの西方、ホロンバイル草原を流れる小河で、ソ連軍は、ハルハ河東岸のノモンハン地区に、約六万の兵力を集中し、日本軍の背後を衝こうとしたが、日本軍の頑強な抵抗にあい、ほとんど進展をみないまま、九月十五日、モスクワで停戦協定が調印された。



ソ連軍の列を乱す戦車の突進

――昭和14年5月、ノモンハン付近――

□ 満洲各地へトラックを動員しつくし――関東軍次へ――

――昭和14年、ハイラル郊外――

□ そろえた軍馬の列を乱す戦車の突進

――昭和14年5月、ノモンハン付近――

□ おおぜいの兵士たちを乗せた装甲車、砲力を誇る兵器――

――昭和14年、ノモンハン付近――

大陸作戦 急速に進む

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

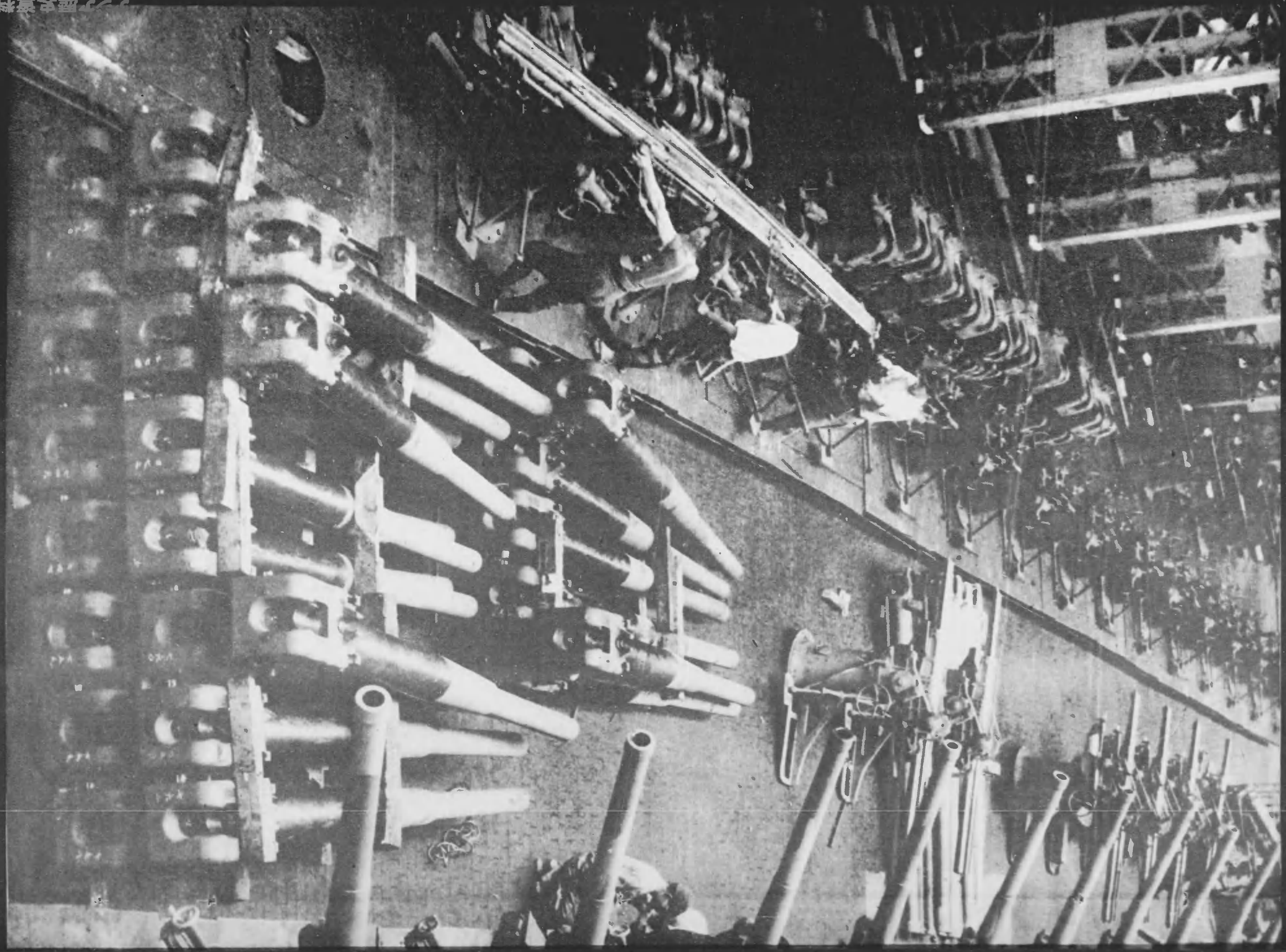
敵の大砲は鐵々前線に送られる

鐵の雨降る

敵少老兵へ「われらの血と汗、そして神州の生氣が凝つて戰力となり、敵の頭上に炸裂するまでの非氣さを思はう

皮勞移轉の戰機は急した。われらの眞まりつゝある戰力を以て、敵の非望を粉碎しようではないかさうだ、・億の力を結集して戰力を結ま

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/





『素早く鋏を入れられるように、地図をすつかりおぼえてしまふとです』と監督さん。この頃は鋏もつ手もすつかり板についてきた



決戦輸送に女学生頑張る

名古屋市立第一高女



模型を前にして、教育係の先生から車輌の説明をきく

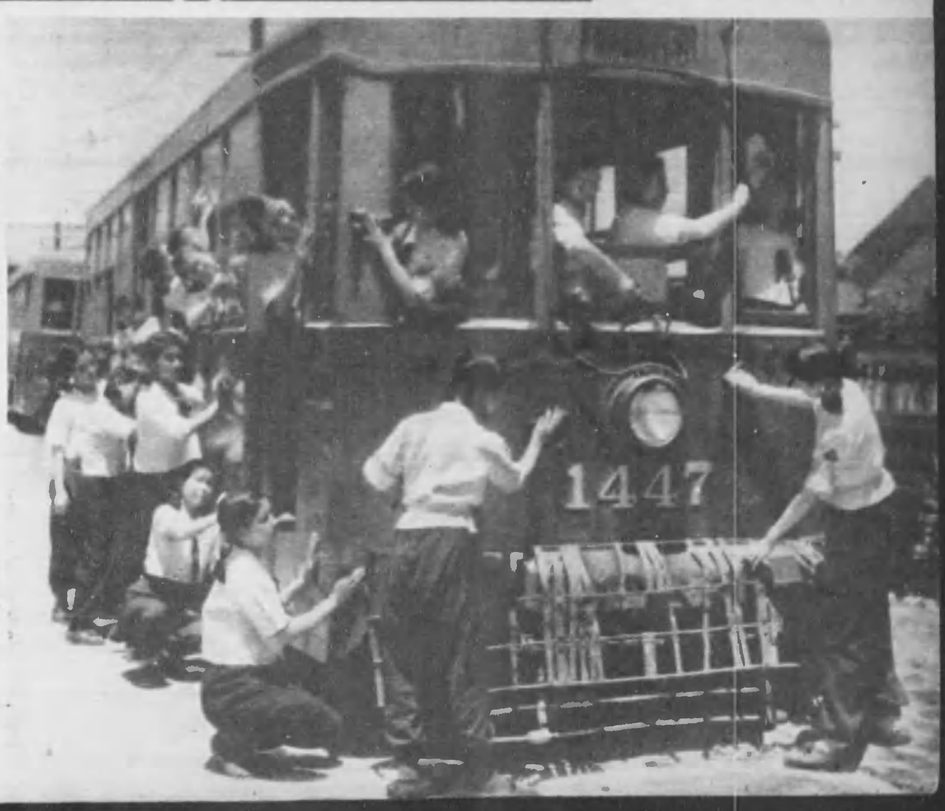
『お次ぎは名古屋駅前でございます』チンチン……制服の女學生車掌さんが すしづめの車内の人々に呼びかけてゐます。その若々しい聲に、いら立ちがちな人々の心もなごみ、車内にはいつも明るい空氣があふれてゐます。この女學生さんたちは名古屋市立第一高女三年生で組織する女子挺身隊です

この四月以來、朝は早くから夕刻五時まで入ごみをぬつて車内の整理にあたつてゐたのですが、こんど全面的に車掌全部の仕事ができるよう にと十日間の教習所生活を經て、面目も新らしく女學生車掌さんとして名古屋市の決戦輸送に華々しく進發したのです

『ウン、そのコツ、そのコツ』と監督さんが電車酔の切符への實習講義。みんなの眼も大まじめ



わたしたちの職場。きれいにお掃除しよう、花もかざりたい



もう一人前の車掌さんです。乗客も新米車掌さんも心たのしく

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

備へを更に強化せよ

＝北九州の教訓＝



北九州に來襲した敵機は、わが鐵壁の防空陣に阻まれて、生産力破壊の目的を果さず遁走した。我が方は見事、敵が誇る超「空の要塞」B29を撃墜し、損害も最小限度に喰ひ止めた。だが、敵の空襲が常にあの程度のものと考へるのは危險である。敵も今度の空襲を基礎にして、更に大規模また徹底的な爆撃を企圖して來ることは疑ふ餘地がない

北九州の人々は實によく戰つた。平素の訓練を十分に活かし、「備へあれば、憂ひなき」ことを、身を以て實證したのである。尊い體驗、そして血をもつてあがなつた貴重な戰訓がたくさん殘されてゐる

われらは、この教訓を明日といはず、早速只今から、われらの勝ち抜く防空態勢に活かし、神州護持の防空強化に更に萬全を期さうではないか

今後の空襲

今度の北九州の空襲では第一に機數二十機前後であつた、來るべき空襲において相當大編隊を以てやつて來ることを覺悟せねばならない

第二に來襲時刻は今度深夜中の二時前から三時半頃までであつたやうに、夜間又は未明の敵襲が多いであらうが、晝間もまた來る可能性があることを銘記し、**男手がゐなくても隣組は守つてみせる自信と準備を整へておく必要がある。**また『雨だから今夜は安心だ』といふ人があるが、最近の飛行機の性能からすれば、現に歐洲戰線にみるやうに荒天空襲も行はれるわけであるから、文字通り空襲は何時でもあるといふことをはつきり頭にきざみ込んでおかねばならない

第三に、北九州の場合でも敵はいはゆる波狀爆撃の挙に出で、長時間にわたりわが上空を脅かしたのであるが、今後敵の在空時間は長いと覺悟せねばならぬ。從つてその間、敵機來襲中は待避所に入つて敵彈の危險を避けると共に、敵機襲來の間隙を縫つて消火、救護に積極的活動をするといふ困難な防空活動をしなければならない

第四に敵は今度は爆彈ばかりを使ひ、工場・主要建物等の破壊を狙つたからであるが、今後都市や工場街爆撃には、主として燒夷彈を使用し、これに爆彈を混ぜて投ずるのが定石であらうから、防火活動は一層困難な條件の下に一段と強化せねばならないのである

要するに北九州の空襲は非常に特殊なものである。從つて防空總本部としても今までの防空指導について特に改正する必要を認めず、我々が日常體得してゐる指導訓練に自信をつけて、今後の空襲に備へてもらへばよいのである

たゞ今回の體驗にも鑑み、次ぎの點は必勝防空陣を確立する上に、是非とも實行していただきたい

一、何時空襲になつてもよいやうに

まづ警戒警報の態勢から空襲警報の態勢に迅速に移ることが大切である。警戒警報下では、全く瞬間の後には空襲の發令をみるかもしれないし、また空襲警報と同時に空襲を受ける状態になるかもしれない

そこで警戒警報下においても「時局防空必携」の警戒警報下の用意だけで滿足することなく、空襲警報態勢及び空襲態勢への移行に常に頭むを持つこと、更に實際には**初動訓練**（本誌九月二十日號第三一九號參照）を十分に積んでおくことが必要である。特に夜間などは、その移行に相當の時間を要し、防空上とんでもない失敗をして、悔いを殘すことがあるから、なほさら注意が必要である。空襲に豫告なしをもつと端的に言つて、順序をふまぬ突發空襲のあることも豫想し、その準備に心掛けておくことが大切である

それには特に就寝時の準備が大切である

夜間や夜明けの空襲に備へるためには、深夜突然の警報にも慌てず、騒がす、迅速に防空服裝を備へ、家の中の通路の整理、障子、襖、ガラス戸、雨戸などの取片附け、迅速待避、携帶物件の搬出などが、暗闇の中でも正しく的確に迅速に行はれるやう、夜寝る時すべての點で準備しておくことが肝要である。寝込みを襲はれると、どうしてもあわてるから、使つてゐる火を消すのを忘れたり、これをひつくり返して大事を出したり、待避所へゆく途中のかたづけが悪いため、物につまづいて怪我をしたり、とんだ失敗をしないやうにすることである。また翌日の食事位は準備しておかねばならない

防空服裝については、夏は男は上衣なし、女はスカート等の輕装でもよいが、いざ警戒警報、或ひは空襲警報が出てもよいやう、上衣、ゲートル、モンペ等の防空服裝並びに防空用具を常時携帶するか、職場に備へつけておく、といふだけの準備が必要である。要するに何時空襲が來てもよいといふ物心兩面の準備が望ましい

二、燈火管制は徹底的に

敵は一寸一點の燈火があつても、これに集中爆撃を行ひ、その火災を燈として次ぎの建物を狙ふのであるから、隣組同士、町内會同士責任を持ち合つて、さういふ不幸を呼び寄せることの絶對にないやうに氣をつけねばならない

特に燈火管制の惡い工場などは、警戒管制から空襲管制に移る時間をどうしても長くたつて思はぬ災害を受ける公算が大であるから、早く移轉できるやう、もしそれが出來なければ警戒管制時に空襲管制に近い措置をとつておく必要がある

一般家庭の燈火管制用具もまだ／＼不完全なものが多く、空襲警報のとき完全遮蔽が出來てゐるつもりで室内で點燈して外部に光を漏らしたり、電燈の滅燈を怠つたりするやうなことのないやう注意を要する。夜間不在にする時は置間のうちからでも必ず電燈は消して外出することとし、寝る時はやむを得ないもの〻ほかは消燈するやうにしたい

警戒警報下に懐中電燈、マッチ、煙草など、どうかといふことがよく問題になるが、東京のやうな乙地區では懐中電燈などは使つてもよいことになつてゐる。煙草、マッチの火はいけないわけではないか、さういふ場合の路上喫煙は愼しむべきであらう

燈火及び光の秘匿要領

種類		警戒管制地域別 乙	警戒管制地域別 甲	空襲管制	遮光條件
街路燈類	街路燈、構燈、その他	減光且遮光	消燈	消燈	實施の際の光線が下方に向ひ、水平以上に光のないこと
普通車輛類	自動車、人力車、荷車、牛馬車、自轉車、その他これに類する燈火	平常のまゝ	減光且遮光	消燈	燈器水平の時、その光が三〇メートル以上のいづれの點よりも認められないこと
携帶燈類	個人携帶燈その他これに類する燈火	平常のまゝ	減光且遮光	消燈	
管制光類中	焚火、マッチ、ライター、煙草より發する光	平常のまゝ	平常のまゝ	隱蔽、消光	

屋内の燈火管制の注意

正しいやり方　間違つたやり方



規定通り五〇燭光　五十燭　十畳　窓　遮光が完全である

一燈の最大燭光は五〇燭までなのにそれ以上ではいけない　百燭　十畳　窓　遮光が不十分で直射光が外に漏れる

照明の方法を工夫せよ

間に合せの風呂敷などでは火災の危險がある

欄間まで蔽ふ

雨戸で隠蔽ができたつもりでも欄間が明るい

出入りにも光が漏れぬやう完全に

障子やドア目から光が漏れる

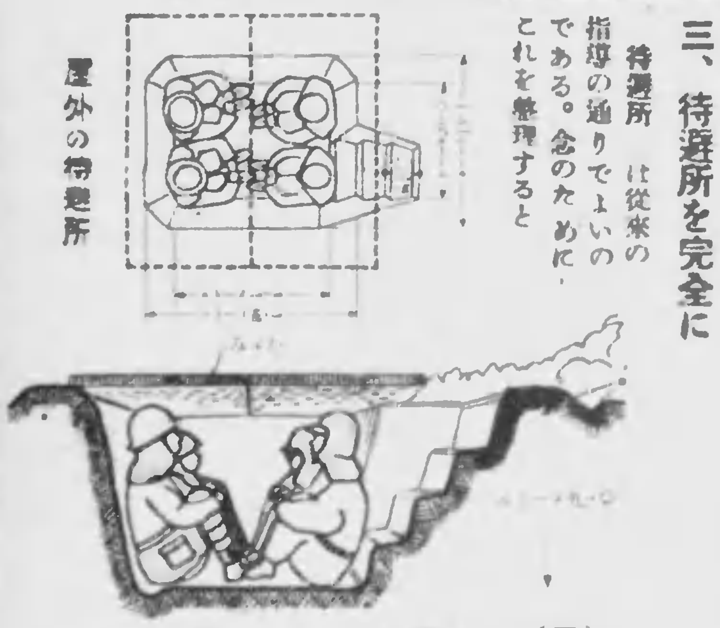
窓掛の高さと許容され得る燭光數との關係

		[illegible]	窓の廣さ 坪數 一	二	三	四、五	六	八	一〇	一二
	一燈の最大燭光數		平方米 一、五	三	四、五	六、七五	九	一二	一五	一八
乙	遮光	五〇	五	一〇	一五	二二、五	三〇	四〇	五〇	(六〇)
乙	減光	五	〇、五	一	一、五	二、三	三	四	五	(六)
甲		二	〇、二五	〇、五	〇、七五	一、一	一、五	二	二、五	(三)

注意（イ）右の表中でカッコしたところは、許容最大燭光を超えるので、二燈以上を使ふこと
例へば乙地域の十二坪の時は五〇燭光と十燭光をつける
（ロ）空襲管制の時は完全に遮蔽するか消燈する

三、待避所を完全に

待避所は從來の指導の通りでよいのである。念のためにこれを整理すると



屋外の待避所

（一）**地下式を原則とする**

イ 屋外の地下式――これを原則とする。但し崩壊物の落下のおそれある所は掩蓋をつければ理想である。しかし掩蓋はなければ、隙間から補強、鐵兜をかぶつて入ればよい

ロ 家の内の地下式――これでもよいが、脱出口は是非必要である。出來れば土砂その他で埋まつた時、下からつき破つて出られるものぐらゐは用意に入れておけばなほ更よい

（二）**地下式が掘れない場合は地上式でもよい**　地下水のため掘れないといふ場合でも、少し位なら無理をして掘つて、裏でも作つて入ればよい。地上式には屋外で土砂等の掩體、家内式では疊等の掩體が必要とすることはいふまでもない

（三）**掩蓋**　地雷彈は土砂を相當吹き上げるのと高射砲も盛んに射ち上げられ、その破片もどん／＼落ちるので、掩蓋はぜひ必要である。掩蓋は二、三寸角の木材を並べた上に疊、土等を置くのがよいが、これ等が出來ない場合は輕掩蓋でもよい。これは雨戸の上に敷蒲團、掛蒲團を敷くとか張板を並べるなり厚い蒲團を被つて入ればよい

（四）**人員**　一ケ所に二十名前後も待避してゐて一彈で全部被害を受けた例もあるので、小人數用のものを多くする

（五）**距離**　これも被害を分散するためになるべく放した方がよい

公共待避所　舗道は落下物があるから輕掩蓋ぐらゐ造れたら造つた方がよいが、なくとももつと數多く造る必要がある

（六）**設備**　敵の在空時間が長くなつてもよいやうに、下に板、蓆、蒲團、毛布等を敷かせたりして冷えないやうにし、幼兒などの用便器も備へつけ、樂な姿勢で長時間疲れないで居られるやう準備をはかつた方がよい。從つて外出の時は鐵兜、蒲團などを用意して、これを被つて入る必要がある。待避所の附近にある瓦礫、石塀などは、負傷の原因になるから是非とも取り除いて置いてもらひたい。また、これが整備は向ふ三軒で責任を持つやうにありたいものである

四、救出救護

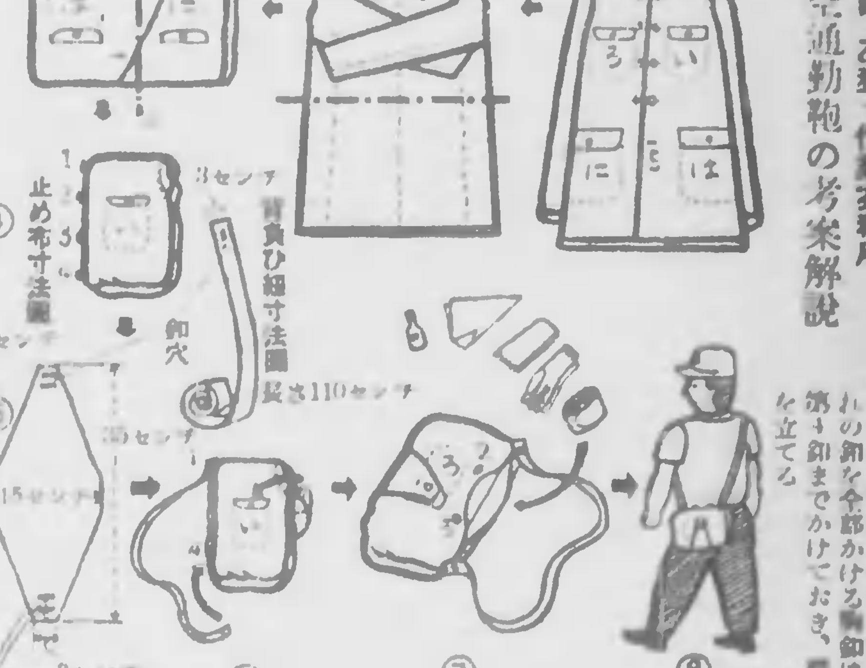
隣組内に埋まつた人々があつたら、警防團その他を待たずとも隣組の間隙を縫つて一なるべく速く協力して救出作業をする必要がある。そのためには隣組でどの家にはどんな人が何人ゐるか、待避所は何處にあるかか平素からおたがひによく知り合つて置く必要があり、警防團などが救出に來てもわからないで困つた事例もある。隣組が全滅するやうなことはないとはいへないから、隣組長なり防火群長は、隣組（群）についてもその位のことを知つてゐると共に記録をもつてゐる必要もある。また町會にもかうした資料を用意するやうにもありたい

五、空襲警報下に斷乎守り抜く士氣

空襲警報が鳴つたら、事前に待避すべき者は直ちに待避させ、防空活動にあたる者は、いざ敵機ご參なれの士氣、氣魄を昂揚して元氣一杯、敵を待つ精神が必要である

それには、防空小隊を中心として警察官、警防團、町内會、隣組まで一本となつて互に激勵し合ひ、また防空準備の注意もし合つて戰ふ態勢を元氣一杯に充實することが肝要である

それにはやはり自信のつくまで今から防空訓練を積んでおくことである。今までのやうに單に基礎的なもの、形式的なものから一ル進んで、實戰即應の訓練に重點をおき、空襲必至の現情勢に對處する敵前仕上げをしておかねばならない。東郷元帥は『訓練は實戰の如く、實戰は訓練の如く』といはれたが、この境地に達してしまへば、如何なる空襲下にも狼狽することなく、冷靜に必要な措置がとられるのである



國民服（甲、乙型）、作業衣利用
防空通勤袍の考案解説

①上衣をきちんと疊み、物入れの釦を全部かける胸釦は第一釦までかけておき、襟を立てる

②上衣をひつくり返し背の方を出し、襟を内側へまげ兩袖を重ねて疊み、中央から上部へ折り疊む

③第一釦の穴と物入れ「は」「に」が出て來る（これには教急嚢を入れる）これをまた中央から二つに折り疊むと

④胸釦と物入れ「い」が現はれる

⑤あらかじめ用意した「背負ひ紐」と「止め布」を使つて

⑥胸釦の第一、四に「背負ひ紐」を、物入れ「い」「ろ」の釦と裏側の物入れ「ろ」の釦とを「止め布」でつなぐ

⑦第二・三釦を開ければその中の兩側に手拭、救急絆創膏その他の物を入れることができ、また物入れは「は」「に」も使用し得る

⑧平時通勤は出勤に着く日中でも上衣を背に、いざといふ時は防空服裝をすることが出來る

考案者　地下千春

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

漫画小説　涙

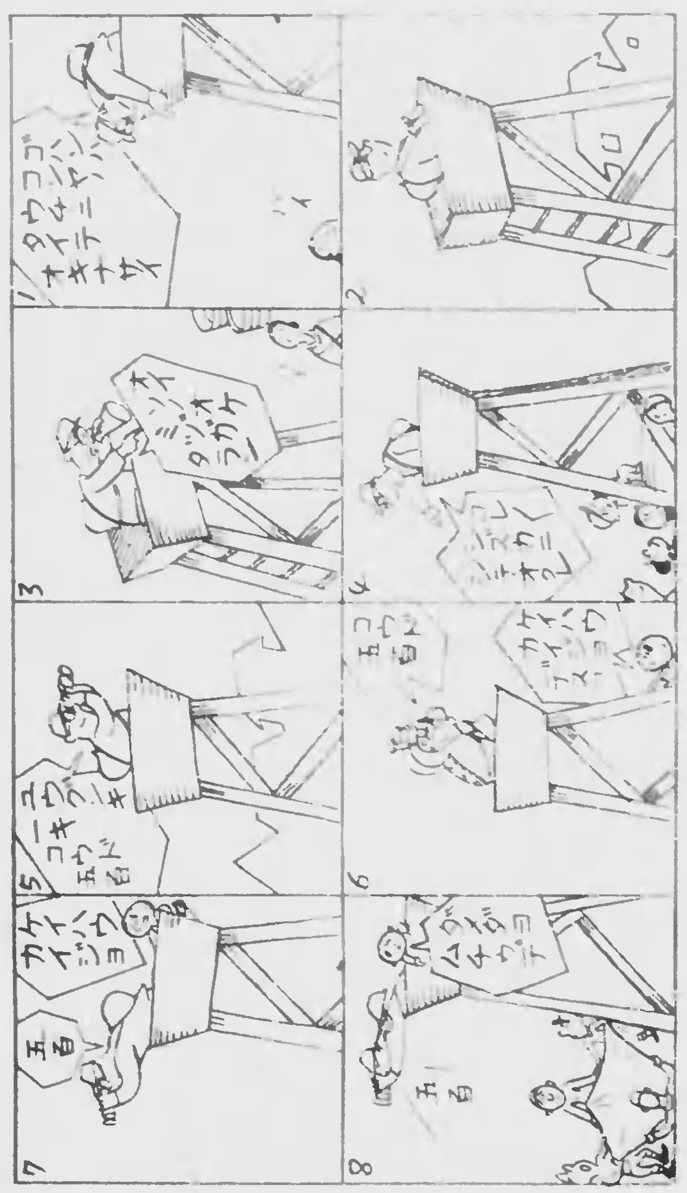


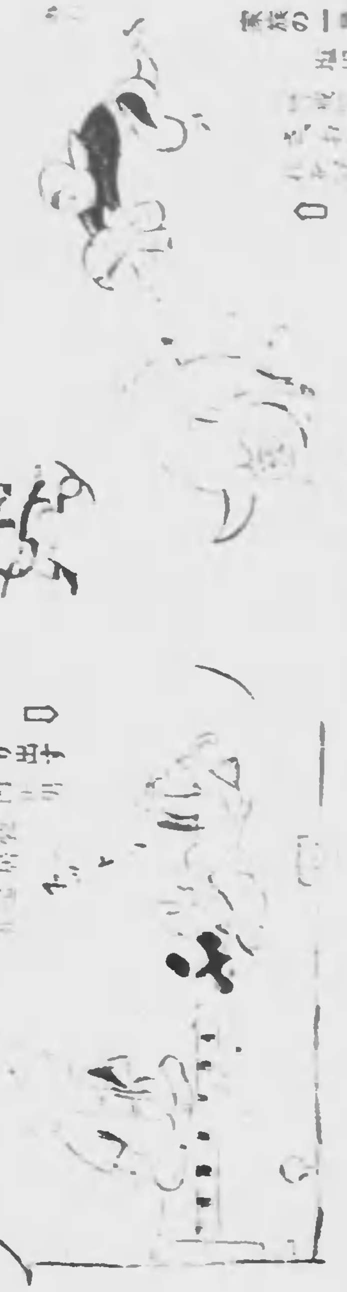


麦の堆肥をつくらう



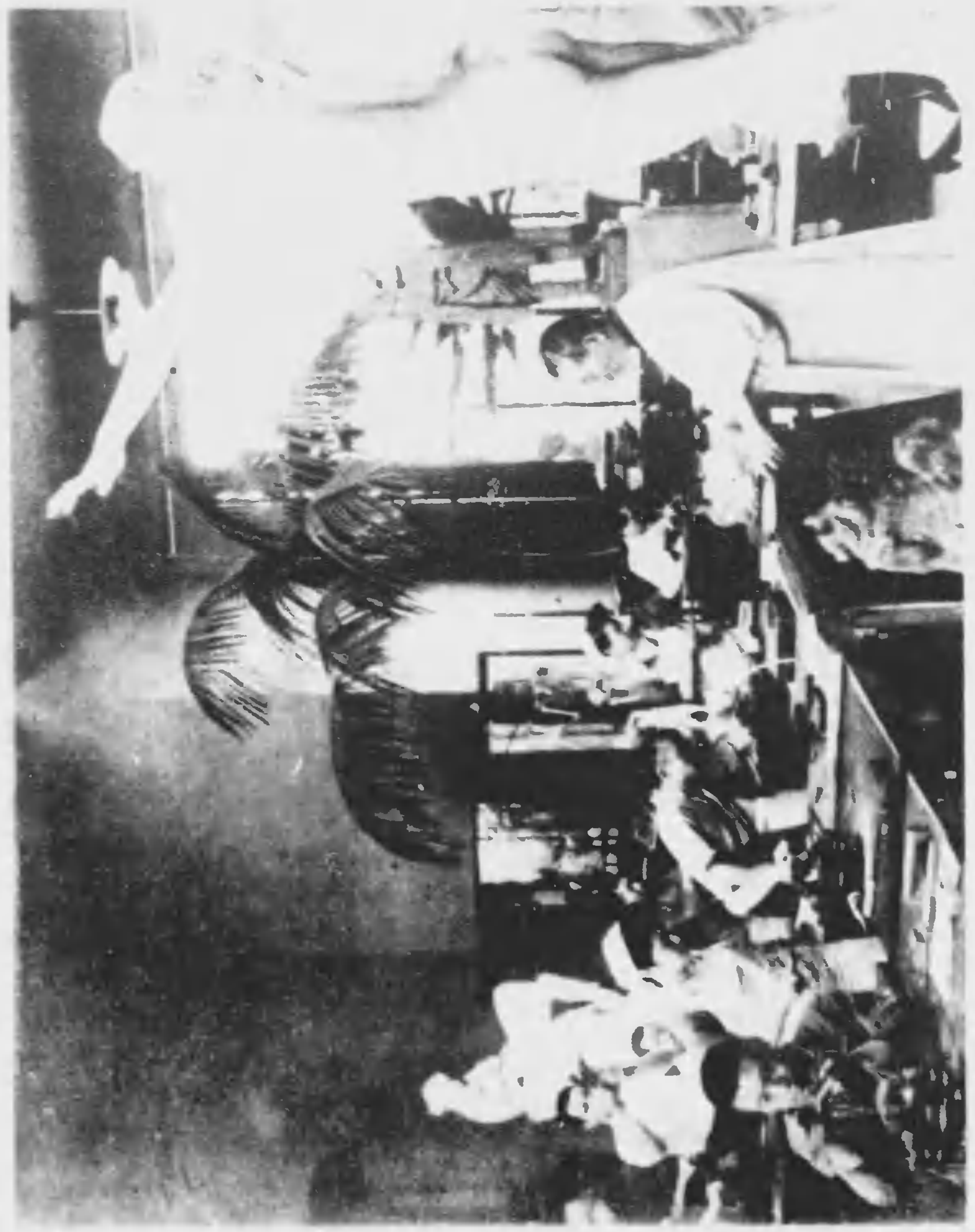
決戦鳥瞰図







わかつたね！ こんなことを！



⇧ アトリエ工場

⇧ 百貨店の工場化



本誌を壁新聞や掲示板に 回覧や前線慰問にも

寫眞週報

定價 十錢

編輯者 情報局

印刷者

發行所